

＜小学校 国語科＞

生き生きと楽しんで書くことのできる子を育てる指導の工夫

－思いを伝える「手紙を書くこと」の言語活動を通して－

糸満市立兼城学校教諭 當 銘 恵 子

内容要約

児童の書く意欲を高めるために、生活科での実体験を生かし、なにかと関わりの多い1年生へ「お店やさんごっこ」への招待状を書く学習を計画した。児童にとって相手が身近にしぼられ、楽しい活動を通して書く目的を持たせることができ、書きやすい「手紙」という形式で書かせることにより児童の書く意欲につなげることができた。

【キーワード】 意欲 書く場の設定 言語意識 手紙

目 次

|                        |    |
|------------------------|----|
| I テーマ設定の理由             | 21 |
| II 研究内容                | 22 |
| 1 意欲的に書かせる工夫           | 22 |
| 2 手紙文を書く指導のよさ          | 22 |
| 3 生活科と関連させた手紙を書くことの単元  | 23 |
| 4 低学年における書く力の基礎的・基本的技能 | 24 |
| III 授業実践               | 25 |
| 1 単元名                  | 25 |
| 2 単元設定の理由              | 25 |
| 3 単元の指導目標              | 25 |
| 4 単元の指導計画と評価計画         | 26 |
| 5 本時の指導計画              | 27 |
| IV 研究の考察               | 29 |
| 1 書く場の設定               | 29 |
| 2 言語意識                 | 29 |
| V 研究の成果と今後の課題          | 30 |
| 1 研究の成果                | 30 |
| 2 今後の課題                | 30 |

## ＜小学校 国語＞

# 生き生きと楽しんで書くことのできる子を育てる指導の工夫

－思いを伝える「手紙を書くこと」の言語活動を通して－

糸満市立兼城小学校教諭 當 銘 恵 子

## I テーマ設定の理由

学習指導要領では、自ら学び、自ら考える力の育成が重視されている。国語科においても、「自分の考えを持ち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読みとる能力や読書に親しむ態度の育成」をめざした改善がなされた。それを受け「書くこと」の領域では、「相手や目的に応じ、必要な事柄を集めたり、選択したり、文章に構成する能力の育成」が大切にされている。そのため、「手紙を書くこと」や「記録や報告をまとめる」、「自分の課題について調べ文章表現できる」などの言語活動例が示され、実際の生活に役立てることのできるような書く能力を身につけさせることになっている。

ところで、低学年の「書くこと」の目標は「経験したことや想像したことを順序立てて、楽しんで表現する」ことである。その達成に向けて、行事や生活科での体験と関連させ、数多く書く場を設定するようにつとめてきた。児童は、楽しい体験をもとに書いた生活文などは、喜んで表現するのだが、したことを羅列した文が多い。また、見つけたことや気づいたことを書かせたり、思ったことを書かせたりすると「何を書いていいのかわからない。」「どう書いていいのかわからない。」など「書くこと」への抵抗を示す児童もいる。それは、書くことに対する児童の必要感を考えることなく、ただ題材を与え、書かせることで、かえって苦手意識を持たせてしまったのではないかと考えられる。また、それぞれの書く過程の中でおさえるべき基礎・基本の指導が不十分で、書く能力を身につけさせることができなかったことにも起因していると思われる。そして、何よりも楽しんで書くことの場の設定が十分でなく、喜んで表現する児童を育てるまでには至らなかったのではないかと反省している。

低学年においては、楽しんで活動することによってその能力を高めていくことが指導のポイントとなる。楽しんで書くことの基本は、題材が身近で、伝えたい思いがあること、書くための材料がたくさんあること、伝える相手がはっきりしていることである。つまり、できるだけ、相手や目的・場面を意識させて書くことができるような活動が展開されるよう、書くことの具体的な場を工夫することが大切になる。本研究では、児童にとって親しみのある「手紙を書くこと」を取り入れてみたい。手紙を書くことは、生活科の中でも書く機会が多く、確かな相手意識や目的意識、場面意識を持たせることのできる言語活動である。

「だれに」「何のために」「どのことを伝えるか」が、明確になり、意欲的に取り組ませることができるだけでなく、題材に必要な事柄を集めたり、簡単な組み立てを考え書く力をも高めることができる活動である。また、今求められている「言葉で伝え合う能力」を目指すことのできる言語活動でもある。手紙のやりとりを通して、思いを伝え合うことに喜びを得ることで、児童の「書く意欲」は高まり、よりよく表現したいという願いにつながるものと思われる。

そこで、児童の「書いて伝えたい」という思いを大切に、「だれに」「何のために」「どのことを」伝えるのかしっかり持たせて手紙を書かせることにより、生き生きと楽しんで書くことのできる子を育てることができると思い、このテーマを設定した。

## ＜研究仮説＞

第2学年における「書くこと」の指導において「書いて伝えたい」という場の設定を工夫し、「だれに」「何のために」「どのことを伝えるか」の言語意識を持たせて「手紙」を書くことにより、書き方を身につけ、意欲が高まって生き生きと楽しんで書くことのできる子を育てることができるであろう。

## Ⅱ 研究内容

### 1 意欲的に書かせる工夫

#### (1) 書いて伝えたいくなるような場の工夫をする（生活科と関連させて）

児童は、生活科の中でいろいろな実体験をしていく。そのときに、大きな驚きや発見がある。胸がわくわくする思いや感動、自然の不思議さなど児童は言葉としてつぶやいている。その子なりの気づきや感動は、書くことにより確かなものになる。その機をとらえて楽しんで書くことができるようにする。児童の思いを生かすことが、何よりも書く意欲を高める。

そこで、生活科での体験を生かし、年間を通して意図的・計画的・継続的に書く場を設定することで、児童の「書いてみたい」「書いて伝えたい」という思いを生かした書く活動が展開できることになる。学校での学習内容を知らせるような内容に偏ることなく、行事の招待状を書いたり、質問の形で書いたりすることなど多様な活動を工夫し、書くことに対する意識を高めていく。

#### (2) 自分にとっての相手や目的意識をしっかりと持たせる

「書くこと」においても「5つの言語意識」を持たせることの意義が唱えられている。学習活動の中で、児童自身がこれらの意識を持つことで、主体的な学習の育成が期待できるからである。

表1 単元「お手紙をかこう」における 5つの言語意識

| 言語意識         |                  | 具体的な言語意識                        |
|--------------|------------------|---------------------------------|
| 相手意識         | 「だれに」            | 1年生に                            |
| 目的意識         | 「何のために」「何を」      | お店やさんごっこにきてほしい気持ちを              |
| 状況意識<br>場面意識 | 「どの場面を」「どのことを」   | お店探検のこと、お店の準備のこと、<br>おすすめの商品のこと |
| 方法意識         | 「どんな方法で」         | 手紙で                             |
| 評価意識         | 思いが伝わる工夫がなされているか | 手紙を書いたことの喜び<br>返事が返ることの喜び       |

これらの言語意識の中でも、特に相手意識・目的意識・場面意識を持たせることで、書くことの必然性が生まれてくる。1年生との探検を設定すると、1年生へお誘いの手紙を書こうという思いにつながる。町の探検にいくと、お世話になった人へのお礼の手紙を書きたいという願いにつながる。自分にとっての相手や目的が見えたとき「書こう」という気持ちが高まり、意欲的な取り組みとなる。

### 2 手紙文を書く指導のよさ

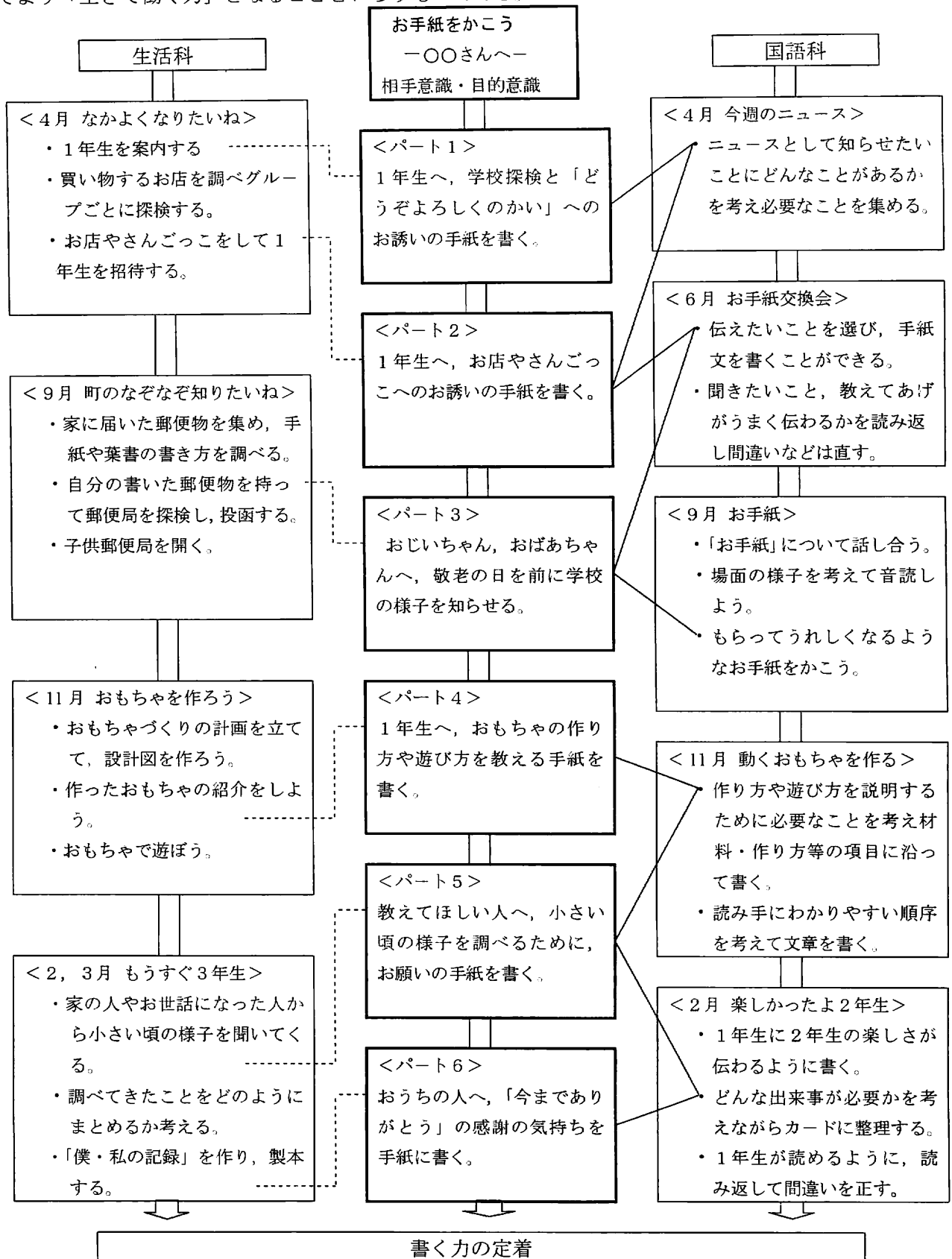
- (1) 「手紙」は、思いを書いて伝えたり、返事をもらったりする「伝え合う」手段となり、書くことの満足感を高めることができる。
- (2) 低学年においては、国語科における感想文の指導、生活科での案内文、探検の依頼文、お礼文など楽しんで書くための有効な手段である。
- (3) 書いて伝える実用的な価値からも、決まった枠の中で文章構成を考えさせる作文技能の面からも価値ある対象であり、「手紙を書くこと」は、低・中・高学年まで共通した活動として示されている。
- (4) 鮮明に相手意識・目的意識を持たせることができ、書く必然性が生まれる。「だれに」「どんな目的で」「なにを」がはっきりしているので、手紙文はもっとも書きやすい文種である。
- (5) 長い年月の中で手紙の形式は生み出された。その形式に学んだり、ふさわしい言葉を選んでいくことは人間らしい心を育むうえで意義深い。

表2 「手紙を書くこと」の系統

|     |                               |
|-----|-------------------------------|
| 低学年 | 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと             |
| 中学年 | 葉書や封書を用いるなどある程度形式をふまえた手紙を書くこと |
| 高学年 | 礼状や依頼状等の手紙を書くこと               |

### 3 生活科と関連させた手紙を書くことの帯単元

年間を通して、生活科での体験を生かし、国語科の教科書教材で学習した「書く力」が、一層定着することを意図している。いろいろな書く場を設定し、相手意識や目的意識を持たせ手紙を書かせることでより「生きて働く力」となることをねらうものである。



#### 4 低学年における書く力の基礎的・基本的技能

国語科の学習内容が系統的・段階的に上学年につながっていくとともに、「2学年のまとまり」の中で確かな力を身につけるようにするために、螺旋的・反復的に繰り返し学習することになっている。そこで、発達段階をおさえながら「書くこと」の低学年における基礎的・基本的技能をしっかりと把握することは、書く力を付けることにつながるようになる。

表3 書く力の基礎的・基本的技能

| 目標           | 経験したことや想像したことなどについて、順序がわかるように、語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに、楽しんで表現しようとする態度を育てる。 |                                                                                                                                                                            |                                                                                                                        |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 指導事項         | ねらい                                                                                  | 技能                                                                                                                                                                         | 意欲を高める手だて                                                                                                              |
| 目的意識<br>相手意識 | 相手や目的を考えながら書くことができる。                                                                 | ・親しい友達や先生に楽しんで書いて伝えることができる。                                                                                                                                                | ・2年生になってなにかと関わりの多い1年生を書く相手として「おみせやさんごっこ」への案内文を書かせる。                                                                    |
| 取材           | 書こうとする題材に必要な事柄を集めることができる。                                                            | ・感動したこと疑問に思ったことなどを、教師や友達に知らせることができる。<br>・経験した事柄を「初めに・次に・終わりに」の順序に従い、詳しく思い出すことができる。<br>・「いつ・どこで・だれと・どんなことを」の観点に従って書く材料を集めることができる。<br>・形・色・大きさ・感じたこと・考えたことなどの観点からメモすることができる。 | ・取材カードに絵や記号などを使ってその子なりにまとめさせる。<br>・ビデオやカメラで活動の様子をうつしておく、書く材料が見つからない子への支援となる。<br>・学習の過程で書いたワークシートや感想、作品も学習を想起させることができる。 |
| 構成           | 自分の考えが明確になるように簡単な組み立てを考えることができる。                                                     | ・伝えたいことをはっきりさせて文を書くことができる。(入門期)<br>・いつ・どこで・だれが・どんなことをしたなど順序よく並べることができる。<br>・「はじめ」「中」「終わり」の大まかな組み立てを考えながら書くことができる                                                           | ・写真を利用し、伝えたい場面を選ばせる。<br>・ワークシート活用で、相手・目的意識を持たせ、初め・中・終わりの簡単な組み立てを考えることができる。<br>・取材カードを貼り替え、順序を意識させる。                    |
| 記述           | 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書くことができる。                                               | ・語と語を続けて簡単な文を書くことができる。(入門期)<br>・行動や時間の移り変わりの順序を考えながら書くことができる。<br>・句読点の打ち方、原稿用紙の使い方に気を付けて書くことができる。<br>・見たものの様子、気持ちなど書く事柄を思い出して書くことができる。                                     | ・ワークシート(構成表)をもとに初め・中・終わりが意識できる用紙に書かせていく。<br>・記述にとまどう子へは文例を示し、支援する。                                                     |
| 推敲<br>評価     | 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに注意することができる。                                                  | ・自分の書いた文章を読み返す習慣を付けることができる。<br>・自分や友達の書いた文章にはよいところがあることに気づくことができる。<br>・経験したこと、身近な事柄を簡単な文章に書くことができたか。<br>・順序のはっきりした文章を書くことができたか。<br>・進んで書こうとしていたか。                          | ・自分の書いた文章を声に出して読ませる。<br>・読み返す習慣を付けるためにも上手に書けているところや意欲を認め評価する。<br>・読み返しカードで読み返す観点を示し、自己評価できるようにする。                      |

### Ⅲ 指導の実際（授業実践）

#### 1 単元名 「お手紙をかこう」

#### 2 単元設定の理由

##### (1) 教材のよさ

低学年における書くことの基本は「楽しんで表現しよう」とすることである。「書いてよかったな」「書くって楽しいな」と感じられる経験をすればするほど、書く活動は広がっていく。書くことの楽しさ、喜びをより多く感じられるもの、それは「手紙」である。児童に「見たこと」や「感じたこと」を文章で書かせてみると、鉛筆を握ったまま困っている場面に出会うことがある。しかし、「家の人になんについて知らせる手紙を書こう」とすると意欲的に取り組み、内容も豊かである。また、感想文を書かせる際にも「主人公へ手紙を書こう」と取り組ませた方が、素直に自分の思いを表現できるものである。このように「手紙」は児童にとって親しみのある言語活動であり、楽しんで表現させる有効な手段である。「手紙」は、相手意識・目的意識をしっかりと持たせることができるばかりでなく、「初め・中・終わり」の文章構成を指導するのにもふさわしい。「中」の部分に自分の経験したことだけでなく、自分の考えや思いを書くことも必要となる。低学年における「書くこと」の指導で、「手紙」は題材に必要な事柄を集め、わかりやすく伝えるための簡単な組み立てを考えさせることができる適切な教材である。

##### (2) 児童のよさ（省略）

##### (3) 指導の手だて

書く意欲を持たせるために次のような工夫を行った。

###### ○導入の場面

手紙を一度ももらったことのない親友がまくんへ手紙を書いてあげるかえるくんの思いやりあふれる絵本「お手紙」を読み聞かせる。ほのぼのとした温かい気持ちにさせる絵本を取り上げることににより、手紙のよさに気づくに違いない。言葉として書きたくなるような、書き留めておきたくなるような場の設定として、生活科での見聞したことや体験を1年生に伝え、招待する文を書かせたい。身近で具体的な相手や目的をしっかりと持たせることが「書く力」をつける第一歩だと考える。

###### ○取材・選材の場面

探検の取材カード、絵作文、スナップ写真など活動を想起しやすいものを用意する。

###### ○構成の場面

「1年生へ」「お店やさんごっこへの招待状を書く」という明確な相手意識・目的意識をもたせたうえで「どんなことを伝えるか」（場面・状況意識）に取り組ませたい。書きたいことを思いつくだまカードへ書かせ、その中からもっとも書きたい2、3枚のカードを選ばせる。それを並び替えたりして、文章の組み立てを考えさせる。

###### ○記述

伝えたい順序に整理し、文と文とのつながりに気をつけて書かせる際には、短作文用紙で少しずつ膨らませていけるよう配慮する。（表現意識）

###### ○推敲・評価

自分の書いた文章を「読み返しカード」で振り返らせる。次にグループの友達に読み返してもらい相互評価をさせる。その際、間違い探しに終始するのではなくお互いの文章のよさに学ばせるような評価意識を持たせる。書き上げた招待状を届け、1年生からの返事の手紙がもらえるようにすることで、児童の書く意欲は、さらに高まる。

#### 3 単元の指導目標

- 「1年生をお店やさんごっこへ招待する」手紙を楽しんで書こうとする。（関心・意欲・態度）
- 伝えたいことを選び、手紙文の簡単な組み立てを考えて書くことができる。（書くこと）
- 主語と述語をきちんと照応させた文を書いている。（言語）

#### 4 単元の指導計画と評価計画

| 次<br>(時)  | ねらい                                          | 学習活動                                                                  | 教師の支援                                                                          | 評価規準<br>□評価観点 ( ) 評価方法                             | 手だて<br>☆Aの子へ★Cの子へ                                                     |
|-----------|----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 1<br>(1)  | ・手紙を書くことへの意欲を持つことができる。                       | ①絵本「おてがみ」の読み聞かせを聞いて、自分の感想を持つ。<br>②手紙をもらった経験や、書いた経験について話し合う。           | ◇がま君のうれしさに共感することで、手紙の良さを感じ取らせたい。<br>◇手紙をもらった経験を話し合わせることで、手紙を書くことへの興味・関心を持たせる。  | ㊦ 手紙を書く学習に興味を持っている。<br>(観察・振り返りカード)                | ★友達のことを聞くことで意欲を高める。                                                   |
| (2)       | ・友達に聞きたいことや教えたいことを手紙に書き交換する。                 | ①友達のことで聞きたいことや教えてあげたいことを探して発表する。<br>②手紙を書き交換する。<br>③返事を書き交換する。        | ◇質問とともにそれ以外の文も考えて手紙を書かせる。<br>◇誰もが手紙をもらえるように配慮する。                               | ㊦ だれに・なにを聞きたいかははっきりさせて書く。<br>(ワークシート①②)            | ☆2・3通と書ける子はやりとりをしてもよいことにする。<br>★友達の発表をヒントに考えさせる。                      |
| (3)       | ・友達と手紙を交換して感想を話し合う。                          | ①もらった返事について話し合う。<br>・よく書けている点<br>・もらった気持ち<br>・よくわかる手紙文<br>(はじめ・中・おわり) | ◇返事をもらったことのうれしさを引き出す。<br>◇手紙文の簡単な組み立てに気づかせる。                                   | ㊦ 手紙のやりとりをしてさらに分かりやすい手紙文を書こうとしている。<br>(観察・振り返りカード) | ☆思いまで書けるように助言する。<br>★手紙のやりとりをしたことへの自信を持たせる。                           |
| 2<br>(1)  | ・1年生に「お店やさんごっこ」のことを知らせる手紙を書くことを知る。           | ①生活科の「お店やさんごっこ」に向けて準備していることを書く。<br>②招待文に必ず書くことがあることを知る。               | ◇1年生へ書くという相手意識をしっかりと持たせる。<br>◇招待文は「いつ・どこで・何を」を入れることに気づかせる。                     | ㊦ 相手や目的を考えながら書いている。<br>(ワークシート③)                   | ☆招待状について知っていることを発表させる。<br>★運動会などの招待状など具体的に考えさせる。                      |
| (2)       | ・1年生にどんなことを伝えたいのか考え、書きたいことをカードに書く。           | ①生活科の町探検やお店の準備から書きたいことを思いっくままカードへ書いていく。                               | ◇やったことだけでなく、見たこと、思ったこと、五感をつかって取材したことなどを書くよう指示する。                               | ㊦ 書こうとする題材に必要な事柄を集めている。<br>(カード)                   | ★生活科での町探検のカードや絵作文、お店の準備をしている写真を見せて考えさせる。                              |
| (3)<br>本時 | ・集めたカードの中から2, 3枚にしぼり分かりやすく伝えるための文章の組み立てを考える。 | ①書きたいカードを2, 3枚選び「組み立て表」に整理する。<br>②並び替えて順序を考える。                        | ◇構成のできている子ものを取り立て指導する。                                                         | ㊦ 自分の考えが明確になるように簡単な組み立てを考えている。<br>(組み立て表)          | ★話を聞きながら一緒に考える。                                                       |
| (4)       | ・組み立てカードにしたがって、自分の思いを伝える手紙文を書く。              | ①はじめ・中・おわりに書くことを意識させる。<br>②組み立て表をもとに手紙を書く。<br>③読み返し、見直しをさせる。          | ◇書く内容が変わったら行を変えるよう指示し、段落を意識させる。<br>◇書き終わったら読み直すよう指示する。<br>◇読み直しの観点をもう一度確認する。   | ㊦ 事柄の順序を考えながら語と語や文と文の続き方に注意して書いている。<br>(手紙)        | ☆自己評価ができたから友達と交換させようところを見つけ合う。<br>★どうしても書けない子へは文章の型をわたして支援する。         |
| (5)       | ・消書きをし、1年生が喜ぶような招待状を書くことができる。                | ①ゆっくり気持ちを込めて書く。<br>②もう一度読み直す。                                         | ◇読み直しの観点をもう一度確認する。                                                             | ㊦ 主語と述語をきちんと照応させた文を書いている。<br>(手紙)<br>(振り返りカード)     | ☆色塗りをしたり、簡単な封筒を作ったりして手紙らしくする。<br>★表記での誤り(促音・長音・拗音・助詞の使い方)へお助けカードで支援する |
| (6)       | ・これからも手紙を書こうとする意欲を持つ。                        | ①書いた手紙を1年生に届けにいき、気持ちを込めてわたす。<br>②書いて渡した感想を発表させる。                      | ◇簡単でいいから1年生からも返事の手紙がもらえるようお願いしておく。<br>◇思いを伝えた感想を発表させることでさらに手紙を書きたいという意欲につなげたい。 | ㊦ 手紙を書いたことで、書き方がわかり、これからもかこうとしている。<br>(発表・振り返りカード) |                                                                       |

## 5 本時の指導計画

### (1) 本時の指導目標

○自分の書きたいことがはっきり伝わるような簡単な組み立てを考えることができる。(書)

### (2) 授業の仮説

「だれに」「何を」伝えれば来てくれるかの言語意識を持たせることができれば、1年生へ思いを伝える手紙の組み立てを考えることができるであろう。

### (3) 本時の展開

| 過程                                            | 学習活動                                                 | 教師の支援☆Aの子へ★Cの子へ<br>留意点◎                                                                                                                                                                                                                                                                 | 評価                                                |
|-----------------------------------------------|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| 導入<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>10分 | 1 本時のめあてを確認する。<br><br>1年生が、きたくなるような手紙を書くための組み立てを考えよう | ◎1年生に(相手意識)・招待状を(目的意識)を書くことを再確認する。<br><br>◎1年生が喜んでくれるような招待状を書く順序を意識づけたい。<br>・初め(いつ・どこで・何を)<br>・中(教えてあげたいこと)<br>・終わり(来てほしい気持ち)<br><br>◎自分のメモを他の人に聞いてもらったり、みんなの書きたいことを聞くことで、書こうとする意欲を高める                                                                                                  |                                                   |
| 展開                                            | 3 自分の組み立て表の見なおしをする。                                  | ◎自分の組み立て表を見直し、これでよいか考える。(読みかえしカード)<br>◎まとめりごとに組み立て表に沿って考えさせる。<br>◎書き足りない内容を黄色いカードに書かせ、その部分に貼り付けさせる。<br>◎机間指導によって児童一人一人に励ましと助言を与えるようにする。<br>★なかなか書こうとしない児童へは話を聞いて引き出したり、探検やお店やさんごっこの準備を想起させる。<br>☆でき次第、読み返しカードで見直しをさせる。<br>◎手直しをして気持ちのよく書けているもの、わかりやすく表現されているものを紹介して、自分の組み立て表をさらによくしようとす | 書 自分の考えが明確になるように簡単な組み立てを考えている。<br>(お手紙すいすいワークシート) |



#### IV 研究の考察

##### 1 児童が「書いて伝えたい」と思えるような場の設定ができたか

生活科で1年生と校内の探検をして「どうぞよろしくの会」で交流を深めていたこともあって自分たちのみでお店の探検の発表を持つよりも、1年生を招いてお店やさんごっこを設定することにした。児童の創意工夫が生かされ、楽しい取り組みができ、「書きたい」という気持ちを引き出したいという思いからである。

表5 授業後のアンケート

| 項目                       | とても楽しかった | 楽しかった | あまり楽しくなかった | 楽しくなかった |
|--------------------------|----------|-------|------------|---------|
| お店やさんごっこは楽しかったですか。       | 9        | 13    | 2          | 3       |
| 1年生へ手紙を書いたときの気持ちはどうでしたか。 | 6        | 13    | 5          | 3       |

アンケートの結果より22名（約8割）の児童にとって1年生を招いてのお店やさんごっこは楽しい活動だったと答えている。お店やさんごっこが楽しくなかったとした児童が5名いたことはグループでのお店探検の取り組み方や、お店ごっこへの準備に積極的に関わりを持たせる支援がよわく、意欲の喚起につなげることができなかったと考えられる。

「1年生への招待状を書いたときの気持ち」では19名（約7割）の児童が楽しかったとしているが8名の児童が楽しくなかったと書いている。お店やさんごっこへ気持ちを十分高めることができなかったことと、日頃から書くことへの抵抗を持つ子への支援が思うようにできなかったことに要因があると推察する。児童にとって取り組みやすい「手紙」という形式を使って、「書きたい」と思える場を数多く設定し、書き慣らさせ「書くことができた」という実感を味わわせていくことで、そんな児童の書くことへの抵抗を取り除いていけるに違いない。

1年生からのお礼の手紙が届いたことも児童の書く意欲を高め、「字を習ったばかりなのに書いてくれてうれしかった。」「私に書いてくれてうれしかった。」「うれしくなるようなことを書いてくれた。」と喜びの声が多くの子からあった。そして、また手紙を書いてみたい児童が22名いて「書いたらかえってくるから手紙を書きたい。」「お母さんに、友達に、また1年生に、今度は3年生に書いてみたい」と書きたい相手が広がっている。そのことも意欲の現れの1つだと思う。

##### 2 「だれに」「何のために」「どんなことを」の言語意識を持たせ手紙を書くことで書く意欲を高めることができたか

表6 書く意欲の高まり

|   | 学習前<br>(野菜を植えたこと) |      |    | 学習後<br>(お店やさんごっこ) |      |    |
|---|-------------------|------|----|-------------------|------|----|
|   | 相手意識              | 目的意識 | 文数 | 相手意識              | 目的意識 | 文数 |
| A | 先生                | ○    | 4  | こうへい              | ○    | 16 |
| B | 先生                | ○    | 4  | さりな               | ○    | 7  |
| C | 先生                | ○    | 3  | りきや               | ○    | 5  |
| D | 先生                | ○    | 3  | まこと               | ○    | 10 |
| E | 先生                | ○    | 7  | たくみ               | ○    | 8  |
| F | 先生                | ○    | 5  | りきや               | ○    | 6  |

「野菜を植えたこと」の手紙ではそれぞれ自分が植えた野菜の種類やしたことを羅列した文が多く、植えたときの詳しい様子や気持ちまで書けている児童は少なかった。文の組み立てにはふれず、思いのまま書かせた手紙文なので平均7文であった。

今回の「お店やさんごっこへの招待状」の手紙では探検を共にしてきた1年生が相手とあって、一人一人が身近で具体的な相手・目的・場面意識を持つことができ、取材の過程でもとまどう児童が、ほとんどいなかった。どの子も文数が平均11文と増えている。1年生へ分かりやすく伝えることを児童なりに意識し、来てほしい気持ちも手紙の文面からうかがえる。

Aさんを例にみると「野菜を植えたこと」の手紙文でも、「お店やさんごっこ」への招待状でもきちんと相手意識・目的意識を持っている。「お店やさんごっこ」への招待状では「どのことを伝えるか」の場面意識を持たせて書かせた結果、文の数も3文から14文と増え、自分達が準備しているパン屋さんの様子を1年生へ伝えたいという思いが生き生きと書け、書く意欲の高まりがみられた。



資料2 児童の書いた手紙文例

## V 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- (1) 生活科との関連を図り、探検したことを生かし、お店やさんごっこへ1年生を招待する手紙を書くという場を設けることで、より身近で具体的な相手・目的・場面意識を持たせることができた。
- (2) お手紙すいすいワークシートを使って、初め、中・終わりの簡単な組み立てを意識させることで、取材カードを使ってはり替えたり、書き足して自分の伝えたいことを工夫して書こうという気持ちが芽生えてきている。
- (3) 「手紙」という取り組みやすい言語活動で、相手に思いを伝え、相手からも返事がもらえるという喜びを得ることで、さらに他の人にも書いてみたいという意欲につなげることができた。

### 2 今後の課題

- (1) 生活科との関連で手紙を書く場を設定する場合、活動そのものが児童の驚き、発見などを大切に、意欲的に生き生きと取り組めるものになっているか留意する必要がある。
- (2) 児童一人一人に応じた指導・評価のあり方を探りたい。
- (3) 低学年における取材カードの書かせ方や、組み立て表から記述への移行の手だてをもっと工夫していきたい。
- (4) 児童の「書きたい」という思いを大切にするためにも、教材と関連させた言語意識を持たせた活動をさらに工夫したい。

|          |                      |        |       |
|----------|----------------------|--------|-------|
| 文部省      | 『小学校学習指導要領解説 国語編』    | 東洋館出版社 | 1999年 |
| 大越和孝編著   | 『子供が輝く国語科授業 書くこと編』   | 東洋館出版社 | 2001年 |
| 小森茂他編著   | 『手紙や通信文を書く学習』        | 明治図書   | 2002年 |
| 沖縄県教育委員会 | 『基礎的・基本的事項事例集 小学校国語』 |        | 2002年 |